

THE WAYANG PUPPET THEATRE



第5回

影絵芝居 ワヤンの実演



「天人の羽衣」より

「プラン・チャキル」

てんにん はごるも

「天人の羽衣」

2013年9月21日(土)

13:30 開場 14:00 開演

(13:40 より歓迎のガムラン演奏が始まります)

観覧無料

【会場】

東京家政大学

120周年記念館 1階 多目的ホール

【お問合せ先】

 東京家政大学博物館

東京都板橋区加賀1-18-1 Tel 03-3961-2918

<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/hakubutu/>

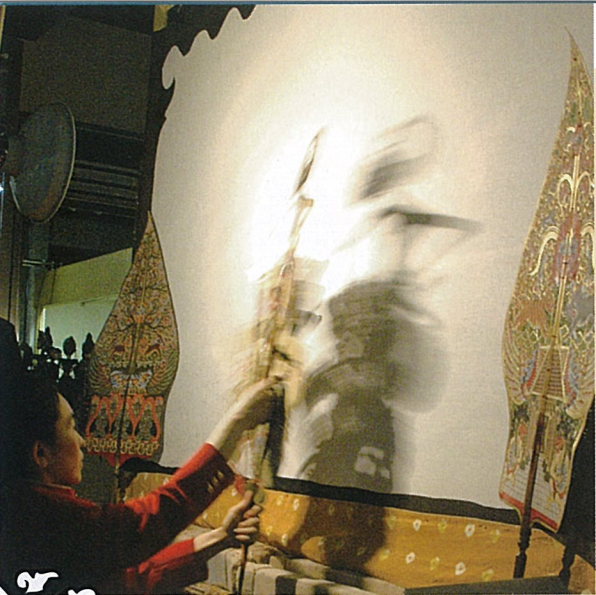


インドネシアのワヤン

ワヤンはユネスコの世界無形文化遺産にも登録されたインドネシアの芸能で、影絵芝居のワヤン・クリや木偶人形芝居のワヤン・ゴレ、仮面芝居のワヤン・トペンなどがあり、上演スタイルもそれぞれに個性的です。

当館では平成19年に特別企画展「影と色彩の魅惑 ワヤン」を開催し、日本ワヤン協会主宰である松本亮氏が40年かけて収集されてきた膨大なコレクションの一部を皆様にご紹介しました。翌平成20年には氏が所有するコレクションから、500点を超す資料をご寄贈いただきました。

この貴重なワヤンの魅力を皆様にご紹介いただくため、当館では平成21年より、日本ワヤン協会の協力を得て、インドネシアの影絵芝居ワヤン・クリの実演を行ってきました。



プラン・チャキル

「マハーバーラタ」より

ワヤンはふつう、夜8時半から朝の5時すぎまで、休みなく上演されつづけます。終わったときは夜が白んでいるのです。演目のほとんどが「ラーマヤナ」と「マハーバーラタ」から採られ、ことに「マハーバーラタ」の演目は基本的なものだけで200以上もあります。そしてこれらの演目には必ずといっていいくらい『プラン・チャキル』（『プラン・クムバン』ともいわれます）の場面が挿入されています。午前2時半から3時ごろのあいだです。

STORY

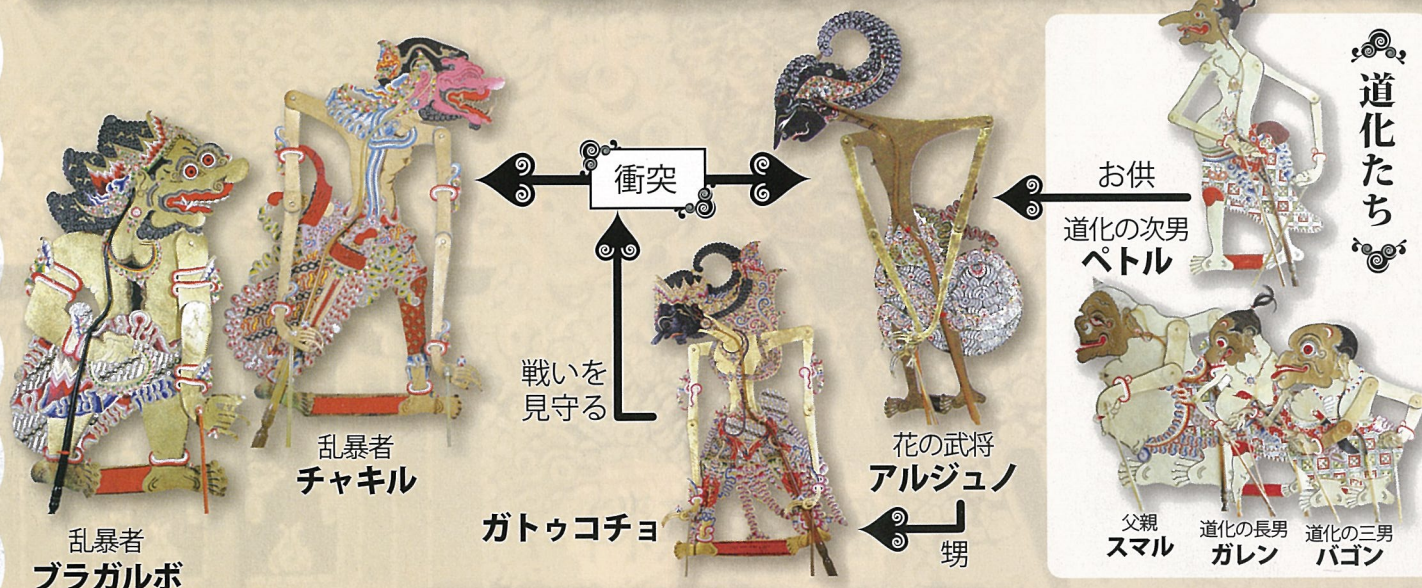
“花の武将”アルジュノは、お供の4人組（ここでは次男のペトルだけ登場）とともに、山の苦行所から自分の国へ向かう途中、森にさしかかり、そこにひそむ敵の乱暴者たちと出会います。お前はだれだ、どこからきた、ここを通ってはならぬ、などと邪魔されます。

じつがまんのはてに、戦いとなり、乱暴者は殺られることになるのです。乱暴者の親分はチャキルです。彼が殺られると、その兄貴分のブラガルボがあらわれ、彼も

アルジュノに殺られます。これらの戦いは一夜のワヤンにおいて、“花の武将”の壮年期の障害打破を象徴する場面といわれます。

最後に、この戦いを見まもっていたガトゥコチョ（大空を飛翔できる武将、アルジュノの甥）が天に舞い、あたりを威圧してこの場面は終り、そのあとワヤンは一気に夜明けまでの主題へと転調するのです。

物語に登場するワヤン



CAST&STAFF 『プラン・チャキル』

[オリジナル(ガムラン)] ジャワで録音

[ダラン(語り+人形操作)] 松本 和枝





影絵詩劇 “ワヤン・ジュパン”

ワヤンの上演形式には無限の可能性が 있습니다。ジャワではとくに、伝統をふまえた新様式のワヤンが つぎつぎに生まれています。

日本ワヤン協会では、ジャワ島の伝統的なワヤン・クリの紹介上演のほかに、創作ワヤンの上演も精力的に行い、好評を博しています。

松本亮氏は「40年ほどワヤンを学び、ワヤンを訳し、紹介上演をつづけ、さらにワヤンの変貌、そして新作を探

ているうち、影絵詩劇として自分なりの創作を試みるようになっていたのである。学ぶだけでは物足りず、創作を通じ、自分の生きざまをそこに放り込んでみたくなった結果である。」と語られています。

ワヤン・ジュパン(日本のワヤン)とは、ジャワで影絵詩劇に付けられた呼び名です。使用する人形や音楽、題材となる物語が違ってても、作品の根底に流れている美学や哲学は、ジャワのワヤンと同じであり、本場でも新しいジャンルとして受け入れられているのです。

てん にん は ごろ も 天人の羽衣 「ジャワ民話」より

STORY

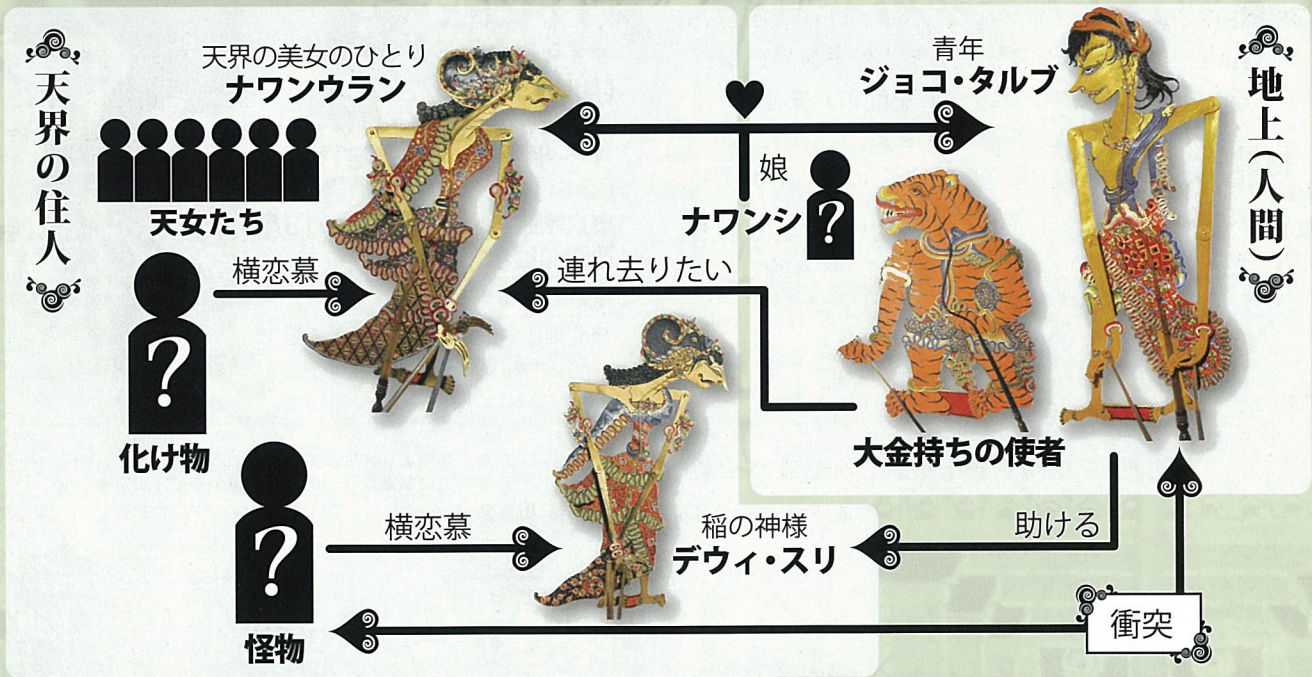
天界の7人の美女たちが深い森の中の湖に、心の安らぎをもとめ次々と舞いおります。しかし、ここも天界での生活とおなじよう、こころの落ち着ける地ではなかったのです。

羽衣が盗まれ、天に帰れなくなった一人の娘がいました。それでも彼女は、羽衣を盗んだ青年の心のおののきや優しさを見るのです。彼女は天界の生活に絶望していたのでしょうか。

彼女は羽衣のことは触れようとせず、青年の求愛に応えます。妊娠し、かわいい女兒にもめぐまれました。いずれ羽衣の見つかる日を半ば怖れながら。

羽衣が見つければ、彼女は天へ帰っていかねばならないのです……。

物語に登場するワヤン



CAST&STAFF 『天人の羽衣』

[脚本・演出] 松本 亮

[出演] 松本 和枝、中村 深樹

[語り] 相良 侑美

[踊り] 横田 直美

[音楽構成] 森重 行敏

[琵琶] 久保田 晶子

[演奏] 月光楽団：森重 行敏、小谷 竜一

小林 賢直、中辻 正

鈴木 路子(友情出演)

[音響技術] 大和田 尚

[照明] 中村 伸

[人形制作] 中辻 正、キ・スカスマンほか



タイムスケジュール

- 13:30 開場
- 14:00 「プラン・チャキル」(約30分)
- 14:35 解説とガムラン演奏(約20分)
- 14:55 休憩(約10分)
- 15:05 「天人の羽衣」(約60分)
※上演前に解説があります。
- 16:30 終了(予定)

※時間はおおよその目安です。事情により前後することがあります。

※途中入退場可能です。

※実演中は席の移動が自由です。表面・裏面両方から観ることができます。



もっとワヤンを知りたくなったら

以下の文献などに、詳しく紹介されています。

- 「ジャワ舞踊バリ舞踊の花をたずねて
—その文学・ものがたり背景をさぐる」
松本亮文・写真 2011年 めこん
- 「ワヤン・ジャワ、語り集成 マハーバーラタ編」
松本亮 編訳 2009年 八幡山書房
- 「ワヤンを楽しむ」
松本亮 著 1994年 めこん
- 「山からきたふたご スマントリとスコスロノ」
乾千恵 再話 早川純子 絵 松本亮 監修
2009年 福音館書店
- 「月刊たくさんのふしぎ ノントン・ワヤン!」
松本亮文 橋本とも子 絵 熊谷正 写真
2009年 福音館書店
- 「ラーマヤナの夕映え」
松本亮 著 1993年 八幡山書房
- 「マハーバーラタの蔭に」
松本亮 著 1981年 八幡山書房



スタンプラリー開催中

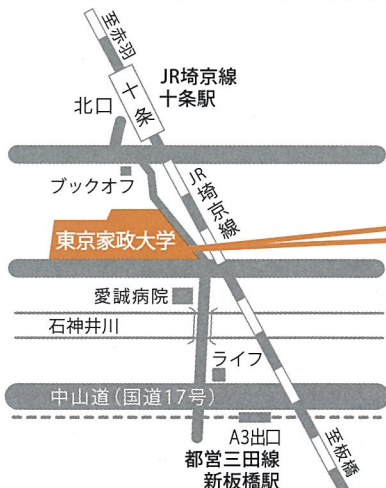
東京家政大学博物館の企画展・イベントに参加してスタンプを集めよう。スタンプを4つ集めたら、博物館オリジナルグッズをプレゼント！ワヤンの実演当日は、受付でスタンプ押印、スタンプカードを配布します。

博物館
オリジナルグッズを
プレゼント!



交通案内

- 【交通】◎JR埼京線十条駅(北口)より十条門まで徒歩5分 ※十条門より会場まで徒歩3分
※正門におまわりいただくと分かりやすいです。
- ◎都営地下鉄三田線 新板橋駅(A3出口)より徒歩12分



博物館企画展のご案内

特別企画展
「イカットとバティック
—インドネシアの2大染織—」

【期間】
平成25年10月17日(木)
～平成25年11月21日(木)

【会場】
東京家政大学百周年記念館5階
博物館展示室

観覧無料

※詳細はホームページ・チラシ等で
順次お知らせします。

